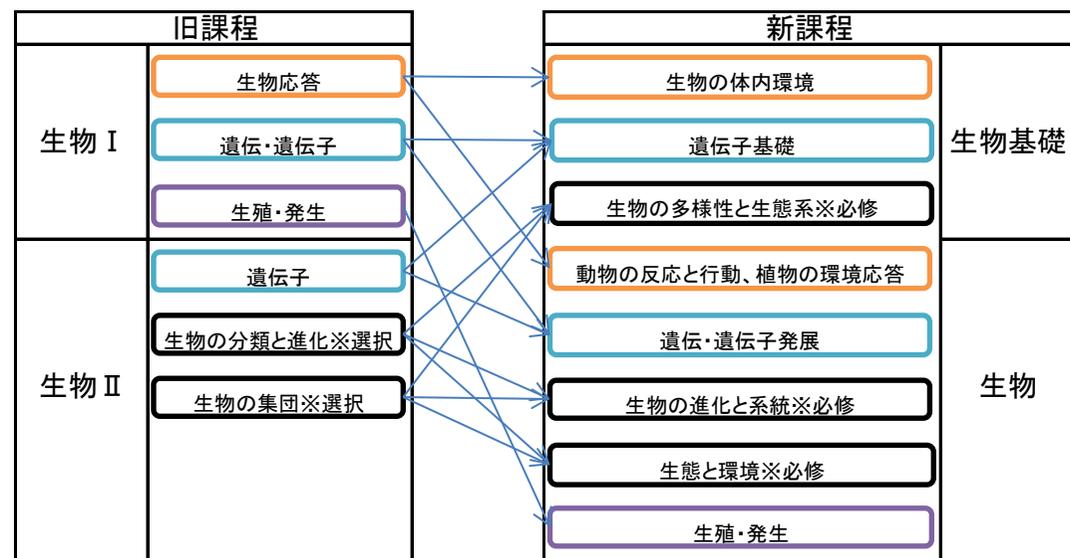


生物

旧課程と新課程の分野

	旧課程	新課程
生物 I ↓ 生物基礎	(1) 生命の連続性 ア 細胞 (ア) 細胞の機能と構造 (イ) 細胞の増殖と生物体の構造 イ 生殖と発生 (ア) 生殖細胞の形成と受精 (イ) 発生とその仕組み ウ 遺伝 (ア) 遺伝の法則 (イ) 遺伝子と染色体 エ 生命の連続性に関する探究活動	(1) 生物と遺伝子 ア 生物の特徴 (ア) 生物の共通性と多様性 (イ) 細胞とエネルギー イ 遺伝子とその働き (ア) 遺伝情報とDNA (イ) 遺伝情報の分配 (ウ) 遺伝情報とタンパク質の合成 ウ 生物と遺伝子に関する探究活動
	(2) 環境と生物の反応 ア 環境と動物の反応 (ア) 体液とその恒常性 (イ) 刺激の受容と反応 イ 環境と植物の反応 (ア) 植物の生活と環境 (イ) 植物の反応と調節 ウ 環境と生物の反応に関する探究活動	(2) 生物の体内環境の維持 ア 生物の体内環境 (ア) 体内環境 (イ) 体内環境の維持の仕組み (ウ) 免疫 イ 生物の体内環境の維持に関する探究活動
		(3) 生物の多様性と生態系 ア 植生の多様性と分布 (ア) 植生と遷移 (イ) 気候とバイオーム イ 生態系とその保全 (ア) 生態系と物質循環 (イ) 生態系のバランスと保全 ウ 生物の多様性と生態系に関する探究活動
	(1) 生物現象と物質 ア タンパク質と生物体の機能 (ア) 生物体内の化学反応と酵素 (イ) 同化と異化 (ウ) タンパク質の機能 イ 遺伝情報とその発現 (ア) 遺伝情報とタンパク質の合成 (イ) 形質発現の調節と形態形成 (ウ) バイオテクノロジー	(1) 生命現象と物質 ア 細胞と分子 (ア) 生体物質と細胞 (イ) 生命現象とタンパク質 イ 代謝 (ア) 呼吸 (イ) 光合成 (ウ) 窒素同化 ウ 遺伝情報の発現 (ア) 遺伝情報とその発現 (イ) 遺伝子の発現調節 (ウ) バイオテクノロジー エ 生命現象と物質に関する探究活動
	(2) 生物の分類と進化 ア 生物の分類と系統 (ア) 生物の分類 (イ) 生物の系統 イ 生物の進化 (ア) 生物界の変遷 (イ) 進化の仕組み	(2) 生殖と発生 ア 有性生殖 (ア) 減数分裂と受精 (イ) 遺伝子と染色体 イ 動物の発生 (ア) 配偶子形成と受精 (イ) 初期発生の過程 (ウ) 細胞の分化と形態形成
	(3) 生物の集団 ア 個体群の構造と維持 (ア) 個体群の維持と適応 (イ) 物質生産と植物の生活 イ 生物群集と生態系	

旧課程と新課程の主な変更点(変更があった分野のみ記載)



新課程のポイント！！

生物応答の一部範囲が生物へ移動
 遺伝分野が生物 I II 範囲が変わり、生物 I の一部が生物に移り、生物 II の一部が生物基礎に移っている
 センター試験が生物基礎と生物が受験可能→理系の負担増
 旧課程の選択分野が必修になり全体的に量が増えた
 生殖・発生が生物 I から生物へ移動
 理科の他科目と比べ、生物 I と II の入れ替わりが激しく、旧課程の参考書を新課程と同じ順番で学習するのは難しい。ただ、全体的な学習内容は選択分野が必修になった以外はあまり変わらない。

生物Ⅱ ↓ 生物	(ア) 生物群集の維持と変化 (イ) 生態系とその平衡	ウ 植物の発生 (ア) 配偶子形成と受精、胚発生 (イ) 植物の器官の分化
	(4) 課題研究 ア 特定の生物や生物現象に関する研究 イ 自然環境についての調査	エ 生殖と発生に関する探究活動
		(3) 生物の環境応答 ア 動物の反応と行動 (ア) 刺激の受容と反応 (イ) 動物の行動 イ 植物の環境応答 (ア) 植物の環境応答 ウ 生物の環境応答に関する探究活動
		(4) 生態と環境 ア 個体群と生物群集 (ア) 個体群 (イ) 生物群集 イ 生態系 (ア) 生態系の物質生産 (イ) 生態系と生物多様性 ウ 生態と環境に関する探究活動
	(5) 生物の進化と系統 ア 生物の進化の仕組み (ア) 生命の起源と生物の変遷 (イ) 進化の仕組み イ 生物の系統 (ア) 生物の系統 ウ 生物の進化と系統に関する探究活動	